

令和二年度（2020年度）

多摩市若者会議

および若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務委託事業

実施報告書

2021年3月 合同会社MichiLab



1.多摩市若者会議の実施について

平成29年度から昨年度までの3年間、ファシリテーターに総務省地域力創造アドバイザーの林田暢明氏を迎え開催してきた「多摩市若者会議」の運営を、多摩市若者会議コアメンバーが設立した法人（合同会社MichiLab）に引継ぎ、若者会議コアメンバーによる自主運営となりました。この法人は若者にとっての地域の接点となる「場」や地域をフィールドに活躍できる「場」の提供をテーマとし従来からの多摩市若者会議の取り組みを継続・発展して参ります。

今年度は自主運営への切り替えと同時に、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ワークショップをオンライン開催とするなどの配慮が必要となり、試行錯誤を繰り返しながら新しいワークショップの開催方法を模索しました。その過程では社会人メンバーだけでなく、大学生のメンバー達がオンライン化を余儀なくされた大学での取り組みを展開してくれるなど、参加者の年齢層に幅のある多摩市若者会議ならではのチームワークで取り組むことができました。オンライン開催のノウハウの一部は地域団体のオンライン化支援や他地域の若者団体のオンライン化支援などにも生かされました。

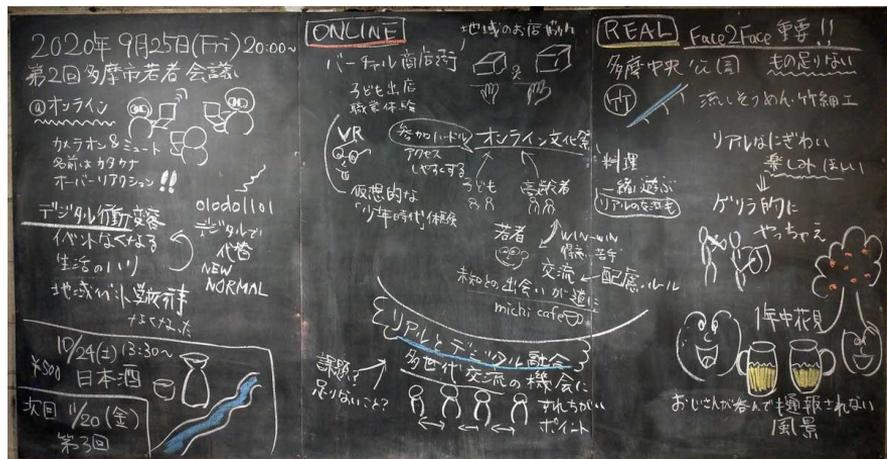
最終的に、昨年と比べ開催回数が減少しておりますが、フィールドワークを含めて全5回のワークショップを行い、延べ参加者数は157名でした。

2.参加者の概要

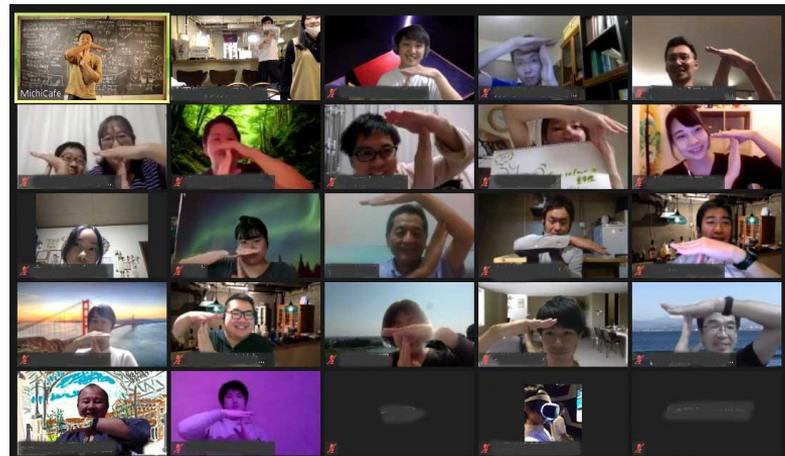
会議内容	開催日	場所	内容	参加人数
第1回若者会議	6月25日(木) 20:00-22:00	オンライン	with/afterコロナの若者の新しいまちづくりについて	36名
フィールドワーク	7月12日(日) 13:30-16:00	市内各所	馬引沢・諏訪地区を歩きながら地域の理解と資源探し	30名
第2回若者会議	9月25日(金) 20:00-22:00	オンライン	若者会議で今後実践したいアイデアについて	25名
第3回若者会議	11月20日(金) 20:00-22:00	オンライン	自分のやってみたいアイデアとOSTによる旗立て、アイデア別の議論	32名
第4回若者会議	1月15日(金) 20:00-22:00	オンライン	アイデア別の議論と来年度の若者会議によるまちづくりの方向性	34名
合計				157名

全体の参加者は157名と昨年度(221名)と比べ減少しましたが、新型コロナウイルスの影響でワークショップ開催回数が1回少なくなったことやオンライン開催の都合で募集人数を抑制した影響が大きく、ほとんどの回で定員前後のご参加を頂きました。今年度の特徴として、昨年までのリアル開催では参加の少なかった高校生以下の参加が増加した他、20~30代の市内在住の社会人の参加も増加しており、新型コロナウイルスの影響による社会変化で地域に目を向け始めた方の地域活動の窓口としても機能し始めていると考えています。

4.第2回多摩市若者会議 実施報告



参加者からのアウトプット



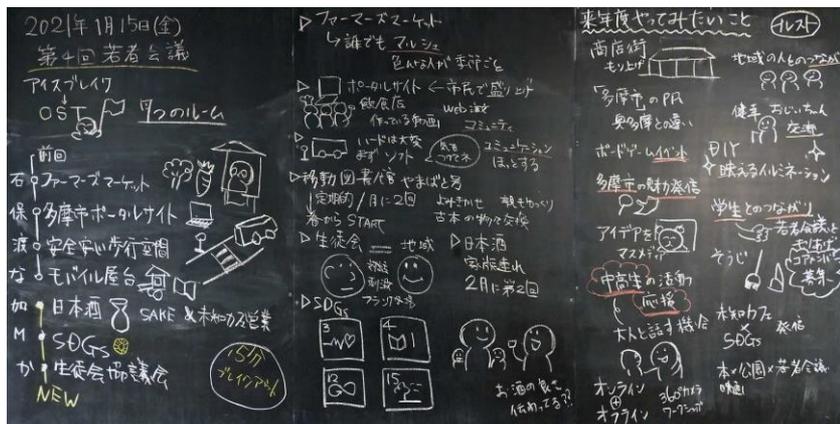
当日の様子

第2回若者会議 令和2年9月25日(金) 20:00-22:00 於:オンライン(未知カフェより配信) 参加者数:25名

第2回若者会議では、急激な社会環境の変化が進む中、今後若者会議でどのようなアイデアを実践していくべきかのアイデア出しを行いました。第1回同様に4~5名のブレイクアウトルームに分かれながら議論を重ねました(席替えができないトラブルもありました)。

この結果、VRによるバーチャル商店街やオンラインによる子供の出店体験、ICT活用によるすれちがいポイント、リアルでの多摩中央公園での流しそうめん、ゲリライベント、料理や一緒に遊ぶなどの交流、多摩市が開催しようとしているオンライン文化祭の参加ハードルを下げる取り組みなどのアイデアが出されました。

6.第4回多摩市若者会議 実施報告



参加者からのアウトプット



当日の様子

第4回若者会議 令和3年1月15日(金) 20:00-22:00 於:未知カフェ 参加者数:34名

第4回若者会議は、前半でOSTでアイデア実現に向けアイデア別ディスカッションを行いました。第3回で出されたアイデアに加え新しいアイデアとして、多摩市の日本酒イベントvol.2、SDGs推進、生徒会協議会が加わりました。

後半は来年度やってみたいことについてワールドカフェでディスカッションを行いました。来年度やってみたい実践アイデアとして、商店街盛り上げ、多摩市の魅力発信、中高生の活動応援、学生との繋がり強化、地域の人との繋がりづくり、本・映画×公園、360°カメラワークショップなどのさらなるオンライン+オフラインの工夫、「未知カフェ×SDGs」発信などが出されました。

7.多摩市若者会議フィールドワーク



当日(1部)の様子(ベルブ永山)



まとめ(未知カフェにて)



2部(小料理うさぎ)

フィールドワーク 令和2年7月12日(日)(1部)13:30-16:00(2部)16:00-17:00 参加者数(1部)30名、(2部)20名

今年度のフィールドワークは、(仮称)地域委員会構想モデルエリアの取り組みで地域と協働していくこととなった馬引沢・諏訪地区の理解と地域資源探しをテーマとしました。1部のコースは永山駅に集合し、公団分譲住宅を建て替えたブリリア多摩ニュータウン、団地商店街(諏訪名店街の青木屋永井様にお話を伺いました)、建て替えの進む都営住宅、馬引沢通り(ロードサイドに店舗などの事業所が多く立地)を巡り、未知カフェでまとめを行いました。2部は、未知カフェより、馬引沢の区画整理事業地区や諏訪神社を巡り、小料理うさぎにて、小料理うさぎ稲津様、スタジオest高橋様に馬引沢通りのお話を伺いました。多くの気づきがありましたが、馬引沢通りに魅力的なお店が多数あること、馬引沢地区が従来から地域活動が活発でしたが若者の参画が進んでいない課題などが今後の地域との協働の鍵になると考えられます。

8.若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務について

本事業については、若者会議の企画・実行とファシリテーションの業務のほかに、「MichiCafe」の運営をはじめとした「若者のまちづくりプロジェクト運営支援業務」が含まれています。昨年度に引き続き、今年度も若者会議からでたアイデアのほか、コアメンバーと呼ばれる自律的に活動するメンバーを中心に開催してきた「コアメンバー会議」で出されたアイデアを実行に移し、多種多様な事業を実施してきました。以下では、それらの活動内容について報告として纏めます。

▼コアメンバー会議の実施について

この間、若者会議とは別に「コアメンバー会議」を開催、会場はMichiCafeとオンライン会議を利用して実施しました。今年度については、①4月24日、②6月23日、③7月20日、④8月17日、⑤9月21日、⑥10月19日、⑦11月16日、⑧12月21日、⑨1月18日、⑩2月15日、⑪3月15日と、計11回開催しました。

▼未知カフェMichiCafeの運営等について

頁	タイトル	日付	詳細	メイン担当
9・10	MichiCafeのカフェ運営	11月7日以降毎週土曜	コアメンバーによる週末1日店長営業	-
11	MichiCafeワーキングスペース運営	9月18日より随時	平日日中のワーキングスペースとしての営業	-
12	オンライン未知カフェ	4月27日～6月2日(計16回)	緊急事態宣言期間中にオンラインで「未知カフェ」のコンセプトを再現しようとするもの	-

9 .MichiCafeの運営について～コロナ対策DIYを実施～



2019年に営業を開始した「未知カフェ」は、新型コロナウイルスの影響で2020年3月10日より営業を自粛、2020年11月7日からの再開にあたって、店内のコロナ対策のDIYを実施しました。

カウンター席とキッチンをビニールカーテンで隔てた他、ソファー席とテーブル席の間にも、ビニール製のパーティションを製作しました。

10. 一日店長によるMichiCafeの営業



「ホルモンを食べて農業を語る」イベント



営業日の一コマ



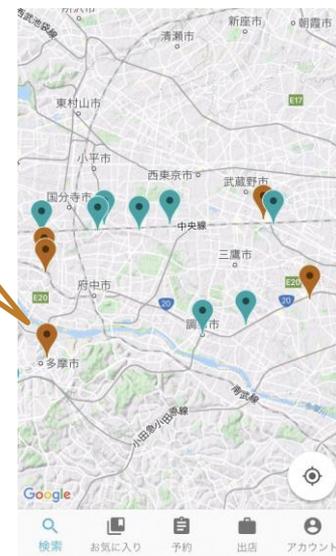
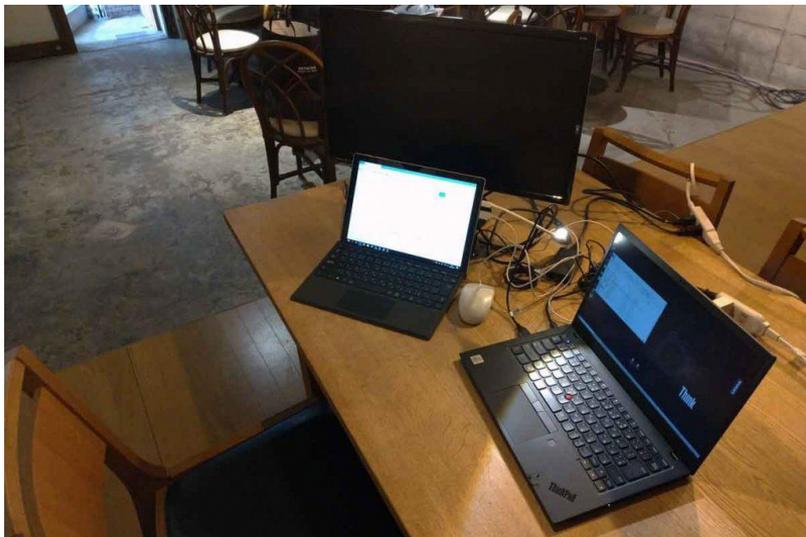
本をテーマとしたイベント企画

2019年に営業を開始した「未知カフェ」は、新型コロナウイルス感染拡大の対応で2020年3月10日より営業を自粛していました。今年度はビニールカーテンの設置や非接触決済の導入など様々な対策を行った上、2020年11月7日より営業再開し、毎土曜夜コアメンバーが一日店長となって未知カフェの飲食店としての営業を行いました。この休業期間中に営業免許を「合同会社MichiLab」名義に、屋号を「MichiCafe」に変更しており、新たな体制での再スタートとなりました。

営業再開後は営業日数を絞る代わりに土曜夜は必ず営業している様にし、SNSでのイベント告知も徹底するなどの工夫を重ねたところ、営業自粛以前と比べ来店者が増え、店内の雰囲気もアットホームになり、若い世代と地域の交流の「場」としての未知カフェのコンセプトにより近づいてきました。

今後の課題は営業日数の増加、今年度は実施できなかったコアメンバー以外の一般市民の巻き込み、よりコミュニティを拡大させていくような取り組みを、今後も行っていきます。

11.平日日中のワーキングスペース利用



「ONESEAT」の店舗検索画面

未知カフェを使用していない平日日中の有効活用の試みとして、ワーキングスペースとしての営業を開始しました。従来からの未知カフェウェブサイトの営業カレンダーによる告知の他、国立市のベンチャー企業が開発した「ONESEAT」の実証実験に参加し、空席をアプリから予約できる仕組みを導入しました。利用者数は多くはなかったものの、近隣の方の利用がありました。

12.オンライン未知カフェ



ONLINE
Michi Cafe
超初心者向け
iPhone iPad 講座
5/22(Fri) 20:00-21:30
1日店長
Nao Runa

企画例

【開催実績】

4/27(月)18:00~20:00
4/29(水) 21:00~23:00
5/1(金)20:00~23:00
5/2(土)20:00~22:00
5/3(日)20:00~22:00
5/4(月)20:00~22:00
5/5(火)14:00~16:00
5/6(水)21:00~23:00
5/7(木)21:00~23:00
5/8(金)21:00~23:00
5/9(土)20:00~22:00
5/10(日)21:00~23:00
5/15(金)13:00~14:00
5/22(金)20:00~22:00
5/23(土)13:00~15:00
6/2(火)13:00~14:00

相田
保坂
加藤
高木
渡部・高木・高野
松井
高橋・石原
高野
石原
相田
神崎
高木
高橋(良)
高橋(菜)・石原
渡部
高橋(良)

某Oの新入社員が教える知られざるスーパーの裏側
体重○○kgの俺にダイエット方法を教える会~好きなお菓子を持ち込んで~
「院生酒場」~売れないバンドマンはモテるのに(怒)~
「就職活動寺子屋」~面接、履歴書の書き方など何でも答えます!~
Googleストリートビュー撮影秘話
「ドラクエウォークについて語る夜」
私たちにジブリのココがいい!!を教えてください in オンライン未知カフェ
実はすごいぞ!多摩ニュータウン~意外と知られていない多摩NTの小ネタ連発~
LGBT+について語る会 in オンライン未知カフェ
新入社員が教えるスーパーの裏側 Part2
「行き先は無量大 妄想鉄道旅行への誘い」
「就職活動寺子屋」~面接、履歴書の書き方など何でも答えます!~
【相談OK】東京都感染拡大防止協力金-概要と説明-
超初心者向け iPhone iPad 講座
東京ヴェルディとホームタウン in オンライン未知カフェ
現役中小企業診断士が「東京都感染拡大防止協力金」の概要と申請方法などを紹介します!

「未知カフェ」のコンセプトである「人・地域との出会いの場」をオンラインで実現しようとするもので、誰でも気軽に参加できる場づくりを目指しました。コロナ禍で全く外に出る機会がなくなってしまった大学生のコミュニケーションの「場」の提供と言う意図あり、今後も年度初めの時期など、環境が変化する時期をターゲットに開催を検討しています。

13.MichiCafe来年度に向けて



2021年2月よりMichiCafe徒歩1分の場所に8㎡の畑を賃貸契約。「(仮称)MichiCafe Farm」として来店客参加型の農作業体験を企画したり、この畑で有機無農薬で育てた野菜をMichiCafeで提供するなどの活用を検討しています。



2021年3月に受賞者が発表された『たまにわ』レシピコンテストに協賛。「若者会議賞」を提供し、受賞者にMichiCafe1日店長権をプレゼント。今後の市民による1日店長の取り組みの展開や新たな来店者の増加など、コミュニティとしての発展を期待しています。

14.長期的な取り組み

頁	タイトル	日付	詳細	メイン担当（敬称略）
15	(仮称)地域委員会構想 諏訪中学区モデルエリア	通年	多摩市「(仮称)地域委員会構想」諏訪中学区モデルエリアでの中間支援組織としての取り組み	高野・高木・池上
16	市民団体オンライン化支援	随時	コロナ禍における市民団体の取り組みのオンライン化をお手伝いしたもの。よみがえれ大栗川を楽しむ会、一般社団法人多摩循環型エネルギー協会、一本杉炭焼き倶楽部など。	高野・高木・小山・高橋(菜)
-	全国まちづくり若者サミット実行委員会への参加	9月～1月	日本青年館主催の全国各地の若者まちづくり団体が集結するイベントの運営に実行委員として参加。実行委員会は多摩市若者会議の他、三重県伊賀市「伊賀市若者会議」、神奈川県横須賀市「一般社団法人NELD（ネルド）」、埼玉県川島町「かわじまみらい塾」、山梨県「学生団体トップファン」で構成。	高木・高橋(菜)・小山・高野
-	危険なバス停	11月～	第3回多摩市若者会議アイデア、国土交通省調査の「危険なバス停」を元にした市内バス停の調査の他、市内全バス停を独自調査中。今後、バスやバス停を通じた多摩市の魅力発信も検討します。	渡部・神崎・池上・小川・多摩大聖ヶ丘中チーム
-	東京大学チャレンジ!!オープンガバナンス2020	8～2月	オンライン化およびオンライン弱者の取り組みでセミファイナリストに選出されました。	小川・神崎・高野

15.(仮称)地域委員会構想諏訪中学区モデルエリア



7/12開催のフィールドワークのまとめ

【活動実績】

- ・2020年3月20日 第3回多摩市自治推進委員会出席 (オブザーバー)
- ・2020年7月02日 第4回多摩市自治推進委員会出席 (オブザーバー)
- ・2020年7月12日 馬引沢・諏訪地区で多摩市若者会議フィールドワークを開催
- ・2020年08月20日 第5回多摩市自治推進委員会出席 (オブザーバー)
- ・2020年09月04日 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会 世話人会出席
- ・2020年10月02日 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会 世話人会出席
- ・2020年10月17日 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会出席
- ・2020年10月22日 第6回多摩市自治推進委員会出席 (オブザーバー)
- ・2020年11月04日 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会 世話人会出席
- ・2020年11月07日 諏訪地区等でスマートフォンアプリを活用した謎解きラリーイベントを開催
- ・2020年11月07日 諏訪名店街・永山団地名店街の空き空間を活用した市民アート展示イベントを開催
- ・2020年12月14日 第7回多摩市自治推進委員会出席 (オブザーバー)
- ・2020年12月19日 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会出席
- ・2020年12月20日 モデル店舗での撮影開始 (1月の緊急事態宣言発令を受け中断)
- ・2021年02月17日 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会 世話人会出席
- ・2021年02月18日 第8回多摩市自治推進委員会(オブザーバー)
- ・2021年03月17日 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会 世話人会出席

多摩市自治推進委員会へのオブザーバーとしての参加、馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会・同世話人会への参加や主催イベント・フィールドワーク等を通じた地域の方との交流・対話を重ね、この地区での取り組みを検討しました。

商店街の空き空間活用として市民アート展示イベントを開催(11月)しました。若者が多い地区にも関わらず地域参画が進まない課題へのアプローチとして、謎解きラリーイベントを開催(11月)、街歩き・ワークショップの開催(3/28予定)、地域の商店・事業者のデジタル媒体露出の支援(モデル店舗の撮影を実施し掲載作業中)、地域福祉推進委員会発行の『ささえ愛』とウェブサイト・動画共有サイト等が連動(1月の緊急事態発令を受け取材中断)。次年度も継続して取り組みを実施して参ります。

16.市民団体のオンライン化支援



オンラインワークショップのオペレーション風景

【活動実績】

- ・ 2020年5月27日 「よみがえれ、大栗川を楽しむ会」 総会のオンライン開催を支援
- ・ 2020年8月22日 「一般社団法人多摩循環型エネルギー協会」
多摩市気候非常事態宣言記念オンライン講演会開催支援
- ・ 2020年8月 市民在籍の一般社団法人のオンライン配信に協力
- ・ 2020年11月 市民音楽サークルの発表をオンライン配信
- ・ 2020年11月 市民在籍の一般社団法人のオンライン配信に協力
- ・ 2020年12月 市内医療法人のオンラインワークショップに機材貸し出し
- ・ 2021年3月20日 「一本杉炭焼き倶楽部」の炭焼きライブ配信を支援

オンライン未知カフェなど比較的早い時期よりオンラインでの活動に取り組んでいた為、市民の方からお声がけ頂き協力させて頂く機会を頂きました。協力の内訳は技術支援やオンライン配信会場としてのMichiCafeの利用の他、出張でのライブ配信など様々な内容です。既に地域で活躍されている団体の皆様に後発の若者会議がお手伝いできる機会であり、今後の協働関係へも発展させていきたい考えです。

17.まちづくりイベントの開催

頁	タイトル	日付	詳細	メイン担当（敬称略）
-	多摩市日本酒イベント	10月24日	第1回若者会議発のアイデア。多摩市の地酒の試飲→小山商店訪問→街歩き→多摩川河川敷でディスタンスを保ち乾杯。コロナ禍でも飲み会をしたいという課題と多摩市の魅力実感を両立。	加藤
18	多摩市オンライン文化祭サテライト会場の運営	11月7日	第2回多摩市若者会議で課題としてあがったものの解決策。多摩市が開催した「みんなでつくる多摩市オンライン文化祭」のサテライト会場の運営	高野・小川・神崎・保坂・高橋(菜)
19	商店街・公園アート展示	11月7日	第1回多摩市若者会議発のアイデア。商店街・公園の空き空間を使用し、コロナ影響で発表機会を失った市民のアート作品を展示。	小川・神崎
20	まちクエスト謎解きラリー	11月7日	位置情報アプリを活用し、アプリを頼りに市内のパブリックアートを巡る	高野・高木・神崎・保坂
21	LGBTQイベント	3月7日	LGBTQなどの理解力向上及び、多様性の創成を目指す。	西山・石原・田附・池上・渡部

18.多摩市オンライン文化祭サテライト会場



Live配信

パブリックビューイングの様子

多摩市が開催した「みんなでつくる多摩市オンライン文化祭」のサテライト会場の運営を行いました。サテライト会場の永山団地名店街・諏訪名店街では、オンライン文化祭のパブリックビューイングを行った他、市民グループの生演奏・合唱をYouTubeLive配信しました。オンライン弱者の支援やあたらしい世代間交流、商店街の活性化を意図したもので、この取り組みはNHK「おはよう日本」、「首都圏ネットワーク」で紹介された他、内閣府地方創生推進室「地方創生図鑑」の注目事業として「みんなでつくる多摩市オンライン文化祭」が取り上げられた際の注目ポイントの一つとして評価されました。

19.商店街・公園市民アート展示



公園空き空間でのアート展示



子ども達に好評だった参加型の展示（島田療育センター）



商店街休業店舗シャッターへの展示

多摩市が開催した「みんなでつくる多摩市オンライン文化祭」のサテライト会場となった永山団地名店街・諏訪名店街と隣接する永山南公園の空き空間を活用し、アート展示を行いました。第1回多摩市若者会議の遊歩道アート展示のアイデアがもとになりスタートしたもので、オンライン文化祭に参加できない造形物や絵画・写真などを製作する市民の作品展示の場を提供することを意図したものです。展示参加者の他、子どもを含む参加者でにぎわったことなどから商店会からも好評でした。

20.まちクエスト謎解きラリー



公園空き空間でのアート展示



謎解きの対象となったパブリックアートの例



スマートフォン向けの位置情報を活用したアプリ「まちクエスト」を活用し、多摩市内のパブリックアートなどを巡る謎解きラリーを開催しました。各自スマートフォンアプリを頼りに街歩きをする為、ディスタンスが確保し易く、同時に謎解きの為に多摩市を巡ることで多摩市の魅力体感に繋がることを意図したものです。参加者からは今まで歩いたことのない場所を知ることができたなどの感想を頂き、満足度も高かったです。また、「同様のイベントの開催をしたい」、「イベント開催をサポートして欲しい」など複数の問い合わせを頂き、現在も会話を重ねているものもあり、今後の新たな取り組みへ展開も期待できます。

21.LGBTQイベント



イベントの様子



イベントの様子

LGBTQに関して興味を持つコアメンバーを中心に、第1回となるイベントを小規模に開催しました。当日はアイスブレイクとして食の好み（多様性）を話題に話し合った後、LGBTQ当事者よりLGBTQに関する基礎的な知識（性的指向と性自認）についてレクチャーいただきました。その後、参加者同士で意見を交換し、さらに理解を深めました。LGBTQ関連の書籍も展示したところ、足を止める市民が多く、情報発信の方法としてとても効果的だと感じました。

今後もLGBTQの知識や理解を深める活動を継続しながら、最終的には多様性を認め合える多摩市の実現を目指して活動していきたいと思います。

22.学校連携

頁	タイトル	日付	詳細	メイン担当（敬称略）
23	帝京大学 文学部社会学科 ソーシャルビジネス実習	7月14日、12月19日 （後期は受講生のプロジェクトチームを 随時サポート）	学生が実際に地域に出る実習、本年はオンライン授業。前期の講義にて若者会議や地域活動の意義について説明、後期は7名の学生と未知カフェ利用に関するプロジェクト企画、発表、フィードバックを行いました。	高木
24	都立永山高校 1年生「人間と社会」	1月20日	「人間と社会」の授業の1コマで、1年生全員に多摩市若者会議の活動や地域活動をすることの意義・若者への期待などを説明しました。	高木・高野・高橋(良)

23. 帝京大学 文学部社会学科ソーシャルビジネス実習



前期授業のスライドより

帝京大学 文学部社会学科ソーシャルビジネス実習の講義を前期(7/14)・後期(12/19)1コマずつ担当。この実習は、学生が地域に出る実習で、本来であれば学生たちが実際に多摩市に赴き多摩市若者会議と企画した地域活動に参加する予定だったものです。

前期はオンラインでキャリアと地域活動の意義について説明(参加者約20名)、後期は受講生の大学生7名が参加しプロジェクトチームを結成、多摩市若者会議メンバーもサポートに加わりながら準備を重ね、受講生自らが企画した若者が地域活動に興味を持って貰うことを目的とした未知カフェと牛乳をテーマとしたオンラインイベントを開催し、イベント参加者・多摩市若者会議からのフィードバックも行いました。

この通年の実習を通し、学生が地域に興味を持つきっかけ作りが出来たと考えています。本実習については次年度も協力させて頂く方向で検討中です。

24.東京都立永山高校

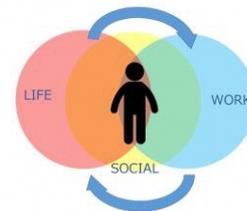


授業を行った体育館にて準備中



校門より。
校舎の向こう側で建て替え校舎を建設中

4. なぜ地域活動をするのか



©2017-2021 Tama City & Tama City Youth Conference 37

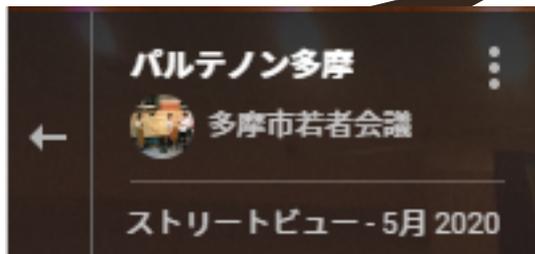
発表スライドの一部

1月20日、市内に立地する都立永山高校の「人間と社会」の1コマで1年生全員に講演。多摩市若者会議の活動、地域活動をする意義、若者世代への期待についてをキャリアを考えさせる問いかけをしながら説明。一部生徒から反響があったとのことで地域活動に興味を持ってもらうきっかけになったと考えています。今後も都立永山高校の授業で連携させて頂くこととなり、会話を継続中です。

25.企業・団体と連携した地域活性化の取り組み

頁	タイトル	日付	詳細	メイン担当（敬称略）
26	パルテノン多摩改装前 360°C撮影&Googleスト リートビュー対応	3~5月	パルテノン多摩の改修前の360°写真を撮影し Googleストリートビューに対応させたもの。公益 財団法人多摩市文化振興財団との協働がスタート。	小川・神崎
27	オンラインワークショップ 「いまヴェルディとホ ームタウンが助け合うに は」	5月23日	東京ヴェルディに協力を頂き、オンラインワーク ショップ「いまヴェルディとホームタウンが助け 合うには」を開催、コロナ禍の今、ヴェルディと ホームタウンができることのアイディアを議論	渡部・西山・泉
28	Jsmile多摩八角堂ランタ ンフェスティバル2020運 営協力	10月17日・18日	instagramフォトコンテストの開催した他、会場 からのYouTube VR Live配信やアンケートコーナ ーの運営を実施しました。	高野・高木・小川・加藤
29	日テレベレーザ多摩市ホ ームタウンデーウォーキ ングイベント	11月8日	日テレベレーザ多摩市ホームタウンデーに合わせ、 多摩センター駅及び永山駅発の市内ウォーキング イベントを開催。参加者24名。	渡部・西山・泉・高野
-	J Smile多摩八角堂 2020イ ルミネーション&クリス マス運営協力	12月12日・13日	モバイル屋台の出店、アンケートコーナーの運営 を実施しました。	高野・高木・高橋(菜)・ 鷲尾

26. パルテノン多摩改装前360°写真撮影 & Googleストリートビュー対応



改装前のパルテノン多摩大ホール（Googleストリートビュー）©Google

昨年度までの遊歩道・公園ストリートビュー撮影プロジェクトがきっかけとなり、公益財団法人多摩市文化振興財団にご協力頂きました。改修工事の為に既に閉鎖済みだったエリアも含め、パルテノン多摩全館の改修前の姿を360°カメラで撮影し、5月までにGoogleストリートビューに対応させました。パルテノン多摩は建築物として魅力的なだけでなく、市内小中学校の合唱コンクールや成人式などにも使われ、多摩市出身者にとっての思い出の場所でもあります。この取り組みで、**パルテノン多摩の当初の姿をGoogleストリートビューに残し、世界に発信**することもできるようになりました。

また、これを機に公益財団法人多摩市文化振興財団との協働もスタートしました。今後も協働関係の発展していきます。

27. 「いまヴェルディとホームタウンが助け合うには」



イベントの様子



当日のスライドより

東京ヴェルディとの協働の取り組みとして、「東京ヴェルディとホームタウンが今後どのように協働できるか」というテーマでホームタウンにお住まいの方同士で意見交換するオンラインワークショップ「いまヴェルディとホームタウンが助け合うには」を開催しました。参加者は22名、挙げられた意見は、その後の多摩市若者会議の取り組みに反映した他、東京ヴェルディから多摩市・稲城市にも報告されました。

28.Jsmile多摩八角堂ランタンフェスティバル2020の運営協力



instagramフォト
コンテストポス
ター



応募後しばらく
するとモニター
に表示される仕
組み



商店街に設置したinstagramフ
ォトコンテスト応募写真リアル
タイムモニター



YouTube VR Live配信の様子

昨年より協働させて頂いている日本総合住生活株式会社が開催された「Jsmile多摩八角堂ランタンフェスティバル2020」に運営協力しました。多摩市若者会議主催でinstagramフォトコンテストを開催した他、会場からのYouTube VR Live配信やアンケートコーナーの運営を実施しました。**Instagramフォトコンテストは想定を大幅に超える800枚以上の写真の応募**を頂き、その後の審査に時間が掛かってしまう問題も発生し、今後イベント運営への課題となりました。引き続き、日本総合住生活株式会社との多摩市・多摩ニュータウンエリアに協働の取り組みを継続・発展していきます。

29.日テレベレーザ多摩市ホームタウンデーウォーキングイベント



ゴールの多摩市立陸上競技場で撮影した集合写真



永山駅発コース



多摩センター駅発コース

東京ヴェルディとの取り組みの中で、日テレ東京ヴェルディベレーザの多摩市ホームタウンデーの開催に合わせたイベントを企画。コロナ禍でも開催できるものとして、多摩センター駅（紅葉満喫コース）・永山駅（遊歩道コース）からホームタウンデーのゲームの会場の多摩市立陸上競技場を目指すウォーキングイベントを開催しました。参加者は24名、市内の紅葉の見頃の時期であったことや、他のウォーキングイベントが中止になっているものが多かったこともあり、参加者からも好評でした。本企画はホームタウンの盛り上げと同時に多摩市の魅力発信・実感に繋がったと考えています。

30.その他

頁	タイトル	日付	詳細	メイン担当（敬称略）
-	NPO多摩ニュータウンまちづくり専門家会議「木曜サロン」登壇	7月17日	NPO法人多摩ニュータウンまちづくり専門家会議の木曜サロン（オンライン開催）にて、コアメンバーの高野が登壇、若者会議の取り組みを発表	高野
-	総務省視察受入れ	10月7日	総務省地域づくり人材養成	多摩市・高野

31.多摩市の取り組みへの参加

No	タイトル	日付	担当部署	参加者（敬称略）
1	多摩市子ども・若者総合支援条例検討委員会	通年	子ども青少年部児童青少年課子ども・若者育成係	高木
2	多摩中央公園パークマネジメント検討会	通年	公園緑地課	高野
3	市民ワークショップ「みんなで考えよう～多摩市の屋外スポーツ施設の今後のあり方について～」	11月21日	くらしと文化部スポーツ振興課スポーツ振興担当	高野

32.法人化について

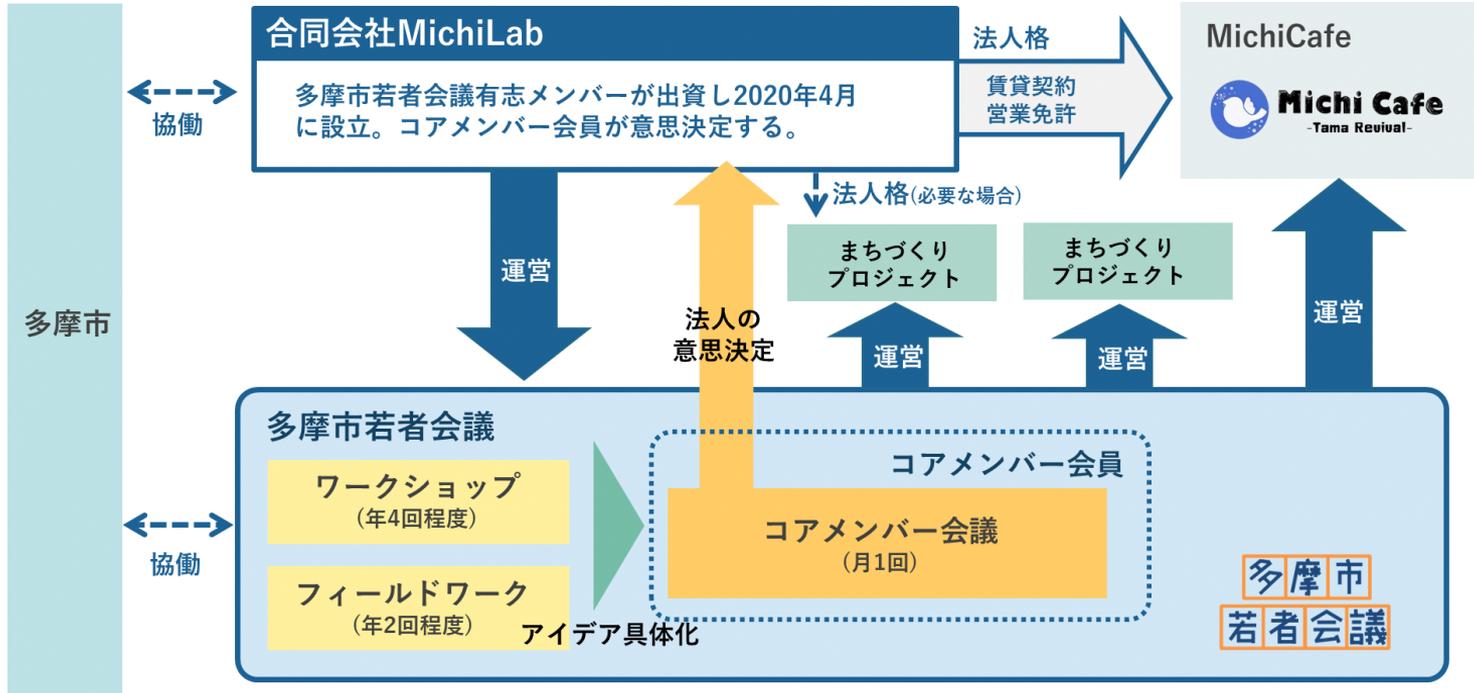


本店の「MichiCafe」

会社概要	
商号	合同会社MichiLab(ミチラボ)
設立	2020年4月13日
所在地	〒206-0011 東京都多摩市関戸六丁目6番地16ニュースカイ桜ヶ丘B1
資本金	100万円
代表社員	高野 義裕
業務執行社員	高木 康裕 松井 晋作 高橋 良輔 進谷 憲亮
顧問	林田 暢明
取引金融機関	多摩信用金庫永山支店

コアメンバー有志で出資しまちづくり会社の法人を設立しました。2020年4月13日登記で、法人としての本店は未知カフェの住所です。2020年10月1日までに未知カフェの営業免許・賃貸契約についても合同会社TAOから引き継ぎ(同時に屋号をMichiCafeに変更)、合同会社MichiLabで自走体制となりました。MichiLabは若い世代が地域で活躍・チャレンジできる「場」づくりを通じ、地域の魅力を発見・創造・発信していくことをテーマとします。

33.法人化後の体制



従来から実施していた多摩市若者会議の月例のコアメンバー会議を実質的な合同会社MichiLabの意思決定機関とし、コアメンバーがMichiLabの当事者として参加できる仕組みとしました。この仕組みは今後もブラッシュアップしていきます。

34.今年度の総括と今後の方向性

本年度の成果

本年の成果は大きく2つ挙げられます。

①独立・自走の体制づくり

昨年度までワークショップ等のファシリテーションを林田暢明さんに、事務局として多摩市役所の方達に大きく依存していました。この1年は法人設立に始まり、ワークショップ等のメンバーによる運営、MichiLab内の事務局機能の立ち上げを行い、年度末までに運営をある程度まで安定させることができました。これは、法人設立後コアメンバーの当事者意識が高まり、これまで以上に自主的に相互協力しながら運営にあたるようになったことが大きいと考えています。

②地域・市民との関係強化

(仮称)地域委員会構想諏訪中学区モデルエリアの取り組みや、MichiCafeのカフェ営業・まちづくりイベントの企画運営を通じ、それぞれのメンバーが地域の方と対話・コミュニケーションを深めながら取り組むことができました。特に、オンライン化の支援を地域の方から求められたり、MichiCafeに特定のコアメンバーとのコミュニケーションを求め来店される方が増えている点で昨年までとは大きな変化が見られます。地域の方との関係性を軸にしたアイデア実践もスタートしており、今後の取り組みの幅の広がりが期待できます。

今後に向けて

①地域づくりの担い手として

左記の通り大きな進展があった一方で、新型コロナウイルスの影響もあり、アイデア実践は小規模な単発のイベントに留まりました。次年度は地域委員会構想モデルエリアや地域の方との協働において、地域の方にも成果が感じられるアイデア実践を目指し取り組みます。

②若年層の巻き込みと年代別グループ化の検討

従来大学生が参加者の中心でしたが、本年は社会環境変化の影響か、高校生以下の世代と社会人の参加が増加し、これまで以上に参加者の年代幅が広がりました。

次年度は世代幅の広がりに対応し、若者会議内での世代別のグループ化も検討し、世代別の自主性の尊重と相互共助により活動の発展を目指します。

●最後に

引き続き、若者に限らず地域のあらゆる世代の地域の方を巻き込みながら「オープンスペース」として発展させていく所存です。地域のみならず、多摩市の皆様の長期的なサポートをよろしくお願いいたします。